

1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	国語	科目	言語文化		単位	3	単位
対象コース	総合	コース	対象クラス	1 年	4 ~ 7 組		
使用教科書	高等学校 言語文化 (数研出版)						
使用副教材	読解を大切にする要点プラス体系古典文法 改訂版 (数研出版) 必携 新明説漢文 (尚文出版) 新版 理解を深める核心古文単語 3 5 1 (尚文出版)						

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について (改行は Alt + Enter)

<p>学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか</p> <p>国語の教科では、「生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにすること」と「生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばすこと」、「言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度」を育むことを目標としています。</p> <p>上述の三つの要素を向上させるためには、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的に考える力や深く共感したり豊に想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることが必要です。また、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養います。以上が本校の「言語文</p>
<p>学習内容：この科目で学習する大まかな内容</p> <p>1、古今を問わず様々は文学作品やそれについての論評などを読むことを通じて、その作品の性質や叙述、論理展開などから作品や文章に表れているものの見方や感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する力を身につけます。</p> <p>2、様々な古典作品を読むことを通じて、我が国の言語文化に特徴的な語句や表現について理解を深め、言語感覚を豊かにします。</p> <p>3、文章の意味は文脈で作られることを理解し、常用漢字を文中で適切に用いる力を養います。</p> <p>4、古典の世界に多く親しみ、こ点作品を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現について理解を深めます。</p>
<p>学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか</p> <p>(1)学校 授業においては「考える手順」を身につけることが最も大切です。ノートとは正答を記すためのものではなく、正答に至るまでの思考のプロセスを書き付けるためのものです。問題文（口頭での質問も含む）の意図を読み取り、思考し、答えを表現する「手順」を授業で体得してください。</p> <p>(2)家庭 予習で次に習う部分を読み、内容理解のための語句の意味調べをしてください。古典作品については、自分で口語訳してみることも効果的な学習法です。復習は、習った事項の整理と暗記にあててください。</p>

3 この科目の評価の観点について (改行は Alt + Enter)

<p>評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか</p> <p>(1)知識及び技能 (40%) 様々な語彙や常用漢字の読み書き、言葉の知識など実社会に必要な国語の知識を有しているかを評価します。</p> <p>(2)思考力、判断力、表現力等 (40%) 様々な情報を的確に整理し、論理的に考える力を評価します。また、他者に自分の考えを的確に伝えるために論理展開や表現を工夫したりしながら、より良く相手に伝えようとする態度を有しているかを評価します。</p> <p>(3)学びに向かう力、人間性等 (20%) 言葉が持つ価値について認識を深め、言葉を通じて他者と関わろうとする態度を評価します。また、自己を向上させるために主体的に読書に親しむ態度を有しているかを評価します。</p>

4 この科目の評価方法について (改行は Alt + Enter)

評価方法：何を使って評価するのか	
<p>(1) 定期考査 → 年5回実施します。「現代の国語」と「言語文化」を合わせて出題しますが、評価は別々に行います。内容は授業での学習内容に加えて、関連する応用問題も出題します。【知識及び技能】、【思考力、判断力、表現力等】を評価する材料とします。</p> <p>(2) 小テスト → 授業の中で漢字テストなどを実施します。【知識及び技能】、【学びに向かう力、人間性等】を評価する材料とします。</p> <p>(3) 長期休暇の課題 → 読書感想文・演習問題を宿題として課します。【思考力、判断力、表現力等】、【学びに向かう力、人間性等】を評価する材料とします。</p> <p>(4) 学期中の課題 → 授業理解の確認のための宿題を課します。【知識及び技能】、【学びに向かう力、人間性等】を評価する材料とします。</p>	
評価における定期考査の割合	
80	%






5 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか			
学期	月	学習の項目	学習の内容
1	4	古文 ○「歴史的仮名遣い」 「品詞の分類」「活用形」	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 古文特有の表現や仮名遣いに親しみ、正しい読み方で声を出して読めるようにします。また、単語は十種類の品詞に分類できることを理解すると共に、活用形が六種類に分かれていることを理解することができるようにします。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 母音が連続する際の読み方や古文特有の読みなどに親しみ、正しく読むことができるようにします。また自立語か付属語か、活用するかしないか等の観点から、品詞を見分けることができるようにすると共に、下に付く語によって活用形が変化することを理解し、文中の用言の活用形を考えることができるようにします。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 古語と現代語の繋がりを意識し、より良い言語表現を求める観点から古語に親しむ姿勢を養います。
		○「用言の活用」	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代語とは異なる古語の活用について、理解し活用の種類を見分けることができるようにします。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な用言の活用の仕方を理解し、文中の語の活用形を考えたり、文に合う形に活用させたりする力を養います。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代語との繋がりの中で古語を捉え、より良い言語表現を求める観点から用言の活用に親しむ姿勢を養います。
		古文 ○「宇治拾遺物語 児のそら寝・検非違使忠明」	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史的仮名遣いについておおむね理解し、辞書などを引きながら古語を学習することができるようにします。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主語の変わり目をとらえ、児が寝たふりをした理由と僧たちの心情について推測できるようにします。その際に、慣用語の辞書的な意味を理解し、現代語で適切な短文を作る力を養います。また「検非違使忠明」においては、「宇治拾遺物語」と「今昔物語集」に収録されているものの差異を捉え、両者の作品としての性質についても理解を深めます。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習課題を踏まえて粘り強く内容や心情の説明に取り組む姿勢を養います。
		○「竹取物語 なよ竹のかぐや姫」	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 辞書や文法テキストを調べながら本文を正確に現代語訳する力を養います。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 『竹取物語』の内容を的確に捉えるとともに、派生作品について具体例をあげてその内容をわかりやすく説明することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指示に従って調べ学習に取り組み、自分の調べた内容を発表するなど、積極的に古文に親しみ表現を豊かにしようとする姿勢を養います。

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか

学期	月	学習の項目	学習の内容
S c	2	文学的文章 ○「羅生門」 芥川龍之介 	【知識・技能】 ・本文中の漢字について、正しく読んだり書いたりできるようにすると共に、本文中の語句の意味や使われ方を理解します。また、文脈の中から小説末尾の表現の意味を適切に読み取り、下人のその後を文脈を踏まえて解釈する力を養います。 【思考・判断・表現】 ・下人の人物像と心情変化をおおむね理解したうえで、自らの解釈を矛盾なく文章にすることができるようにします。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・作品を理解するために、学習課題を踏まえて周囲と協調しながら話し合いに取り組む姿勢を養います。
		漢文 ○「古事成語」漁夫の利、矛盾、狐借虎威、朝 	【知識・技能】 ・漢文に由来する古事成語が現代の日本語として用いられていることについて、具体例をもとに理解します。 【思考・判断・表現】 ・現在用いられる古事成語の多くが漢文に由来することを踏まえたうえで、古事成語の意味を説明したり、適切に文中で用いたりする力を養います。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・現代語との繋がりの中で漢文を捉え、積極的に漢文に親しみ表現を豊かにしようとする姿勢を養います。
		古文 ○「徒然草 ある人、弓射ることを習ふに」 	【知識・技能】 ・助動詞について十分理解し、辞書などを引きながら自ら進んで学習する力を養います。 【思考・判断・表現】 ・漢文調の表現や修辞を正確に指摘し、作者の意図を推測しながらその効果を説明する力を養います。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・積極的に古文に親しみ、主体性をもって表現を分析し、他者にわかりやすく説明する姿勢を養います。
		○「伊勢物語 芥川」 	【知識・技能】 辞書や文法テキストを調べながら本文を現代語訳する力を養います。 【思考・判断・表現】 ・和歌の修辞を正しく解釈し、本文中の和歌に込められた心情を説明する力を養います。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学習課題を踏まえて粘り強く本文を解釈しようとする姿勢を養います。
		文学的文章 ○「舟を編む」 三浦 しをん 	【知識・技能】 ・作品読解や実際に言葉に定義することを通して、言葉が文化的背景を持っていることを理解します。 【思考・判断・表現】 ・作品の内容をおおむね解釈したうえで、「自分が編集したい辞書とはどのようなものか」を説明することができるようにします。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学習課題を踏まえて粘り強く考察する姿勢を養います。

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか

学期	月	学習の項目	学習の内容
3	11	漢文 ○「管鮑乃交」 ○「先從隗始」 	【知識・技能】 ・諸子百家が活躍した歴史的背景を理解します。 【思考・判断・表現】 ・戦国時代の歴史的背景を踏まえた上で、郭隗が賢者を招こうとした経緯を推察し、説明することができるようにします。また「先從隗始」においては、蘇秦の外交政策の内容を理解し、適確に説明する力を養います。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学習課題を踏まえて、粘り強く課題に取り組む姿勢を養います。
	12		
	1	古文 ○「伊勢物語 東下り」 ○「伊勢物語 筒井筒」 	【知識・技能】 ・辞書や文法テキストを調べながら本文を現代語訳する力を養います。 【思考・判断・表現】 ・和歌の修辞を正しく解釈し、本文中の和歌に込められた心情を説明できるようにします。また、登場人物についての的確に捉え、現代的な価値観のもとに自分なりに感想を述べられるようにします。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学習課題に従って粘り強く本文を解釈したり、話し合いに取り組んだりする姿勢を養います。
	2		
	3	文学的文章 ○「山月記」 中島 敦 	【知識・技能】 ・作品のストーリーを文脈の中で理解することができるようにします。 【思考・判断・表現】 ・作品の展開を踏まえ、人間が虎になるという設定がもたらす効果について理解します。また、作品に哀傷が登場することによる効果を理解し、話し合いによって作品についての理解を深めます。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学習課題を踏まえて周囲と協調しながら話し合い、物語設定について考察を深めます。
		漢文 ○「漢詩」 	【知識・技能】 ・「人間」「故人」などの語が日本語と漢文で異なる意味をもつことについて、双方の意味の違いを理解します。 【思考・判断・表現】 ・「静夜思」「月夜」「八月十五日夜……」に共通してみられる「月が空間を超えて人を結ぶ」というモチーフについて理解し、説明できるようにします。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学習課題を踏まえて粘り強く課題に取り組む姿勢を養います。
		古文 ○「土佐日記 門出」 ○「土佐日記 帰郷」 	【知識・技能】 ・辞書や文法テキストを調べながら本文をおおむね現代語訳できるようにすると共に、漢文日記と仮名日記文学の性格の違いについて理解します。 【思考・判断・表現】 ・本文中に見られる古典常識について理解し、本文の読解に役立ててられるようにします。また、『土佐日記』の女性仮託の効果について、漢文日記との違いを踏まえて説明できるようにします。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学習課題を踏まえて表現を分析し、自分なりの考えを述べられるようにすると共に、粘り強く考察に取り組む姿勢を養います。